

「認知症高齢者の医療選択を サポートするシステムの開発」

医療同意をめぐる現状

家族がいる場合、認知症という病名がついているだけで十分本人に説明なく治療が進められる

同意を求められる家族へのサポートが不十分

身寄りのない高齢認知症患者が身体疾患にかかったときに経験する困難

J-DECS  Health care decision-making
support for people
with dementia in Japan

医療同意をめぐる課題

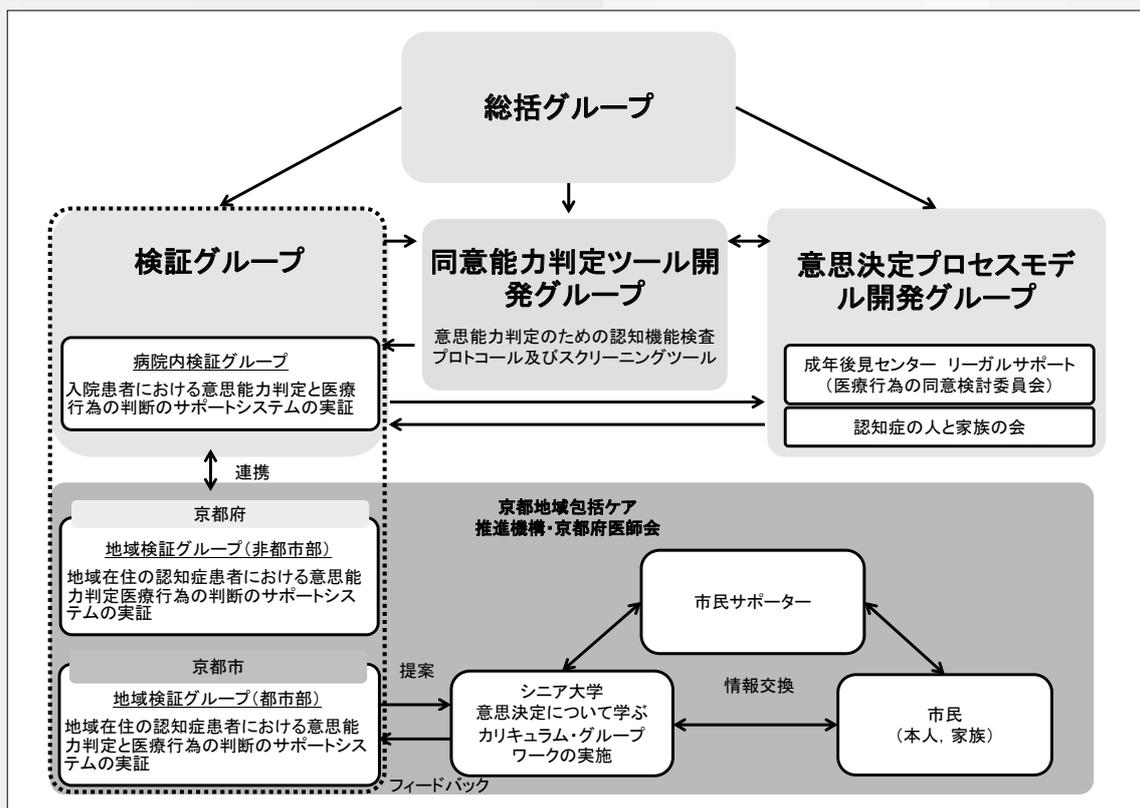
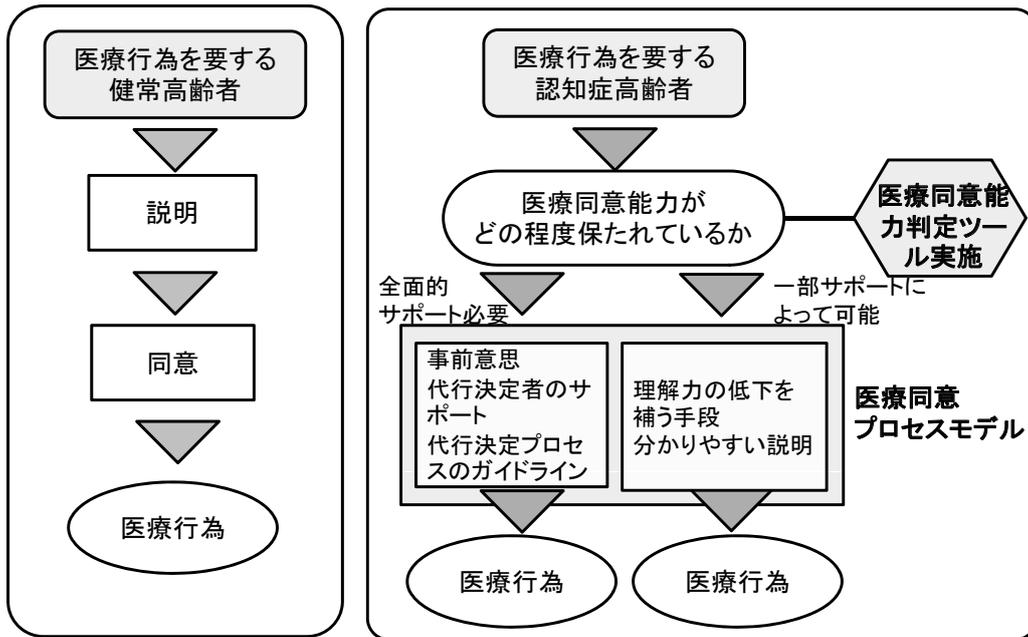
1. 医療同意能力評価と、本人の意思のくみ取り
2. 代理で判断する家族(代行決定者)へのサポート
3. 家族がいない場合の意思決定方法

「高齢社会に関する新しい研究開発領域」研究課題提案に係る深掘り調査報告書 2009年「認知症患者の権利擁護のための意思決定能力判定システムの開発」
成年後見センター・リーガルサポート「医療行為の同意検討委員会」中間報告書



1995年京都府立医科大学卒業。同大学附属病院研修医。2001年同大学博士課程修了。医療法人精華園、京都府精神保健福祉総合センター、五条山病院勤務を経て、2005年より京都府立医科大学勤務。精神保健指定医、日本精神神経学会・日本老年精神医学会専門医、指導医。京都府認知症総合対策推進プロジェクト委員。京都府認知症サポート医連絡会幹事。成年後見センターリーガルサポート医療行為の同意検討委員会委員。専門は老年精神医学と脳画像研究。

包括的サポートシステムの提案



「認知症高齢者の医療選択をサポートするシステムの開発」

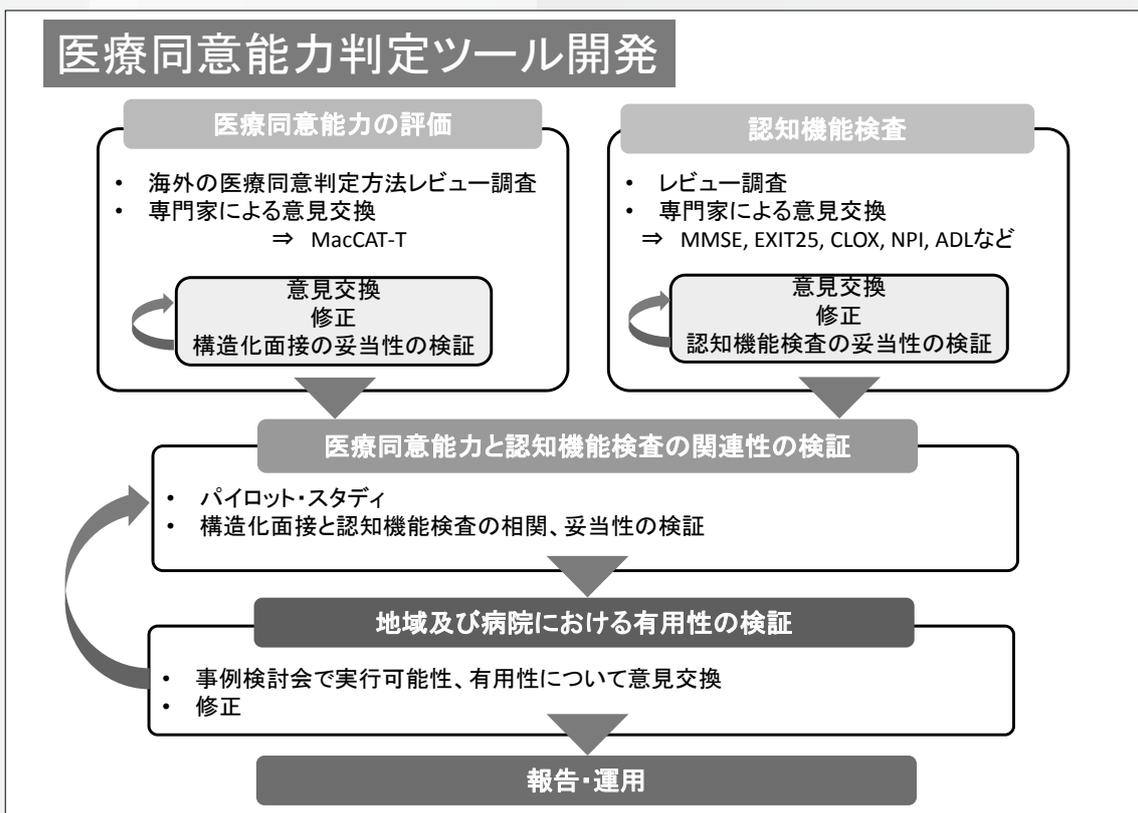




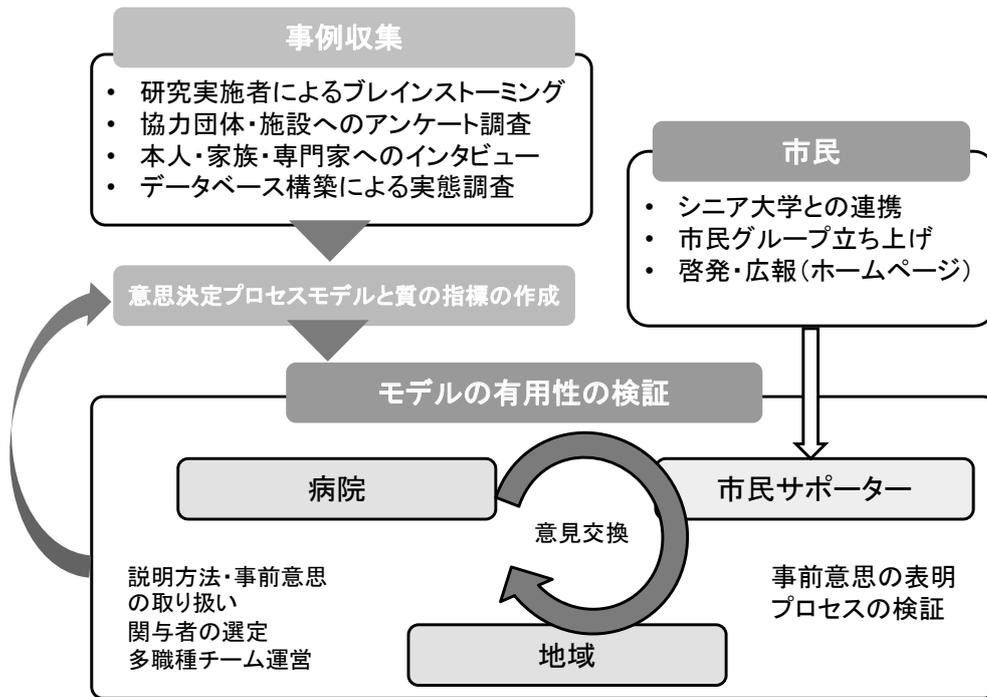

丹後地域

京都市上京区・左京区





意思決定プロセスモデル開発



達成目標

ツール

- 医療同意能力評価法
- 能力低下に対する補助手段
- 事前指示書作成支援ツール

プロセス

- 医療同意プロセスの質の指標
- 医療同意プロセスガイドライン
- 困難事例とその対応をまとめた事例集
- 医療同意法法案